

第八号

第六号六月七日附八月四日ニ達しセルマン人之工夫したる時計
図一葉正ニ達せり西洋人ハ發明するハ古来より嚆にもあるなれ

とも若輩にして其巧なる如何にも世界にも稀なる事ニあるへし
宜哉短命するも長命したらんハ必ず国の為にも成へきに不幸
尤惜むへきや日本も往年如何様之人物可出来も難計けれとも他
県ハ不知我県之如く名聞余計にてハ百年の後といへとも無覚束
県令土木之事にハ長したる積り己一人候や頻ニ普請計りする中
ニハ出来榮之上氣ニ入らぬと忽取毀拵直し最早之作工料半価な
とト押付る事も有之哉ニ候あきれ果たるならん西国事件も大分
押詰賊地一里四方タノ堅幾十丁ニ横幾丁と成たるとと撃縮兵士
も余計之分か追々東京ニ戻し今日や一声之炮烟中ニ西郷も打た
んとする処其手薄なるを突破られ六十里之処を一昼夜ニ駆抜鹿
児島ニ打入県庁焼払はれたるとの事はハ八月三十一日之事也県
官ハ今を始舟にて長崎に逃たるよし其後如何なりたるや新聞に
も不見得日向ハ賊地ニ成たるなと風聞なりと実に全国衰斃此事
なるへし魯と土之事件如何相成しや其起る処所謂知らされとも
世界ニ関係する戦なとト申者もあれハ旁々西南事件大ニ可患憂
之至也

第七八両号九月十四日達し学校休業ニ付避暑ニ在方エ罷越趣其
土地之風習を見るに避遠之村方ハ何国も同様なるものと知られ
たり西洋といへハ隅々まで文明なる者なるへしと想像するに小
便之始末など当近東之薬と伯仲しかたし寺を寄舎所と号するに
て不開仕之地なる知らるゝ也今日より県社八幡宮祭事也例之練
物など出来たり近年市中を金を取立扱処にて拵させる風ニ成り
当年も其通り也委敷事ハ跡之便ニ可申入当今家内にてハ拾臨半
日中外出ハ単物着用之候ニ至也

武夫殿

長閑

再伸第五号ハ未だ達せず行違なけれハよろしく

七月東京学校も休暇にて河上も帰國中第六号東京ニ達したると見え周防岩国ハ郵送ニ相成発信日ハ五十九日にして達せり岩国七月廿日ニ発し八月四日ニ落手其日積ヲ以岩国往返を除すれハ其地より三十三日にして東京着之積りなり郵便之便なる事始て覚ゆなり

(封筒表)

「亞米利加国ホストン府

ホートウイン、ストリ、

□十二番 (武夫注記)

菊池 武夫 殿

要用書 平安

(封筒裏)

「九月十五日 午 前 後 時出ス

大日本岩手県陸中国盛岡

外加賀野八十六番

菊池 長閑

(武夫注記)

「答済」